

君はそれでもいねむりをしますか？

いつもつついしてしまう授業中のいねむり。どうしていねむりをしてしまうのか。全校生徒にアンケートをして、各学年のいねむりの傾向を調査して、その理由をまとめた。ほかに、生徒が実際に行っているいねむりの対策法も紹介している。対策法を読んで、少しでもいねむりが減ってくれるといい。

いねむりアンケートの結果

全校 739 人
(回答率 89%)

1. あなたは授業中、いねむりをしたことがありますか？

- A ほぼ毎日 179人
B 一週間に3回から4回程度 180人
C 一週間に1回から2回程度 187人
D ほとんどしない 193人

2. 1の問にAからCと答えた人のみ答えてください。
その理由を次の中から一つ選んでください。

- A 眠いから 439人
B つまらないから 38人
C だるいから 26人
D 授業がわからないから 13人
E やる気がわからない 19人
F その他 ()

3. 2でAと答えた人のみ答えてください。
なぜ眠くなるのですか？一つ選んでください。

- A 前日夜遅くまでおきていたから 145人
B 気がたるんでいるから 38人
C 部活動などで疲れているから 69人
D 授業の雰囲気でお眠くなるから 128人
E その他 ()

4. 1でDと答えた人のみ答えてください。
授業中に居眠りをする人を見て、どのように思いますか。
5. あなたの知っている、または行っている眠気対策があ
ててください。

いぬむりについて全校でアンケートをとった。アンケートの回収は、一年生が237人、二年生が255人、三年生が247人、全校で739人（89%）だった。問1の「あなたは授業中にいぬむりをしたことがありますか」の回答を下のグラフにまとめた。

一年生の特徴は、CとDの回答が多かった。一年は少ししずつ学校生活に慣れてきているが、まだ緊張感があるからの結果だと思う。

二年生の特徴は、Aの回答が多かった。これは中だるみの状態が定まらないなどが原因だと思われる。

三女生は、一年生と同じくCとDの回答が多かった。やはり三年生は、受験勉強でいる三年生は、受験勉強でいる人は少ないからといって、少なくなっている。

問2では、圧倒的にAの「眠いから」の回答が多かった。全校で439人（約60%）の人がそう答えた。

なぜ「眠い」のだらう。問3の回答を見てみよう。一年生は、Aの「前日夜遅くまで活動などして疲れるから」の回答が多かった。一年生には早く生活のリズムをつかなくていい。

二年生は、Cの「部活動な

どで破れているから」の回答が多かった。二年生は新卒が多ひつぱつていかなければならない存在なので、今はそれうしても部活動が中心になつてしまふのだらう。

三年生は、Aの「前日夜復讐したから」と口ひの「授業の雰囲気眠くなつてからの」の回答が多かつた。やはり予習、復習、受験勉強などしていると寝るのが遅くなつてまうのだらう。雰囲気ははげすぎにがんばる人はいい、次に問4の「眠る人を見るときどう思うか」では「疲れている気持ちはわかる」「授業の雰囲気はわからない」などの意見がもたれない。

もあったが、「寝るなら学校にこないでほしい。」などの厳しい意見もあった。

最後は問5の眠気対策の回答について。とてもたくさん種類の対策が出たが、ここには多かったものを紹介する。まずはほとんどのクラスから出た「①休み時間にガムを噛む」「②コーヒーを飲む」「③自來水をさす、だった。この3はほとんどのクラスで出ていた。次に多かった

のは「叫びたりする」(「気合や」や「根性」で起きる)の二つだ
気合や、根性は精神的なもので
なので、人ひとりで差が出る
と思う。

今回全校アンケートを実施
して、どの学年にもいねむ
りがあることがわかった。対
法を読んで、少しかつた。対
りが減ってくるといっても
う。全校のみなさん、アン
ケートのご協力ありがとうございます。

学校に新たな風を

一生八人の加入で顔を吹き返した伝統ある新聞部。かしまだ我々には新聞部というところと、安が面白いところ。そこで能代高校新聞部（旧）Ｂで、現在北羽新報の記者をなさっている池端雅彦さんに貴重な時間を割いてもらいお話を伺った。

池端さんは昭和五十一年から五十五年まで在学しており当時の活潑な新聞部の様子を我々に具体的に伝えてくれた。

当時は本校が二年連続で甲子園に出場した年であり、十人以上の部員がたまたまた、能高祭の「壁新聞コンクール」部門は新聞部が企画したもので、部員が先生と一緒に審査員もしていた。さうに驚いたことは当時の新聞に広告はあり、広告費として三五千円をもらい取材費としていた。など、現在の新聞部の状況とは大きく違っていた。がわかった。

は構成・文体を練
つてから記事を書
く。なぜだかさん
のアドバイスをし
てくれた。

今回の池端さん
のお話は、新生新
聞部にとつて方向
性を決める助言が
多く、あらゆる面
でプラスになった。
我々は今回のこと
をききえて、伝統



新聞部メンバーと池端さん



新聞部メンバーと池端さん

学校の4階の謎に迫る!!

日頃の学校生活で生徒たちが不思議に感じていることはないか。新聞部は学校の七不思議について考えた。話し合っているうちに、毎日見ているが、何に使われているのか、わからない、管理棟の四階部分の小さな部屋について知りたいたいということになった。さっそ



教室棟から見た4階部分

く山崎教頭先生にインタビューをした。

◎何の部屋か
「あの部屋は貯水槽でその水は生徒たちが毎日使っているトイレや水飲み場の水になっている。」

英語が使える
秋田の子ども

九月三日に、今年から県内の一・二年生を対象とした英語能力判定テストが実施された。このテストの目的や意味について英語科の銭谷先生にお話を伺った。高校卒業までに英語検定準二級を取得するためのめやすとなるテストで

あり、三段階の中から自分で選んで受けることができる。秋田県では、「英語が使える秋田の子」とも、育成のために英語検定を進んで受けてほしいと呼びかけている。また、近いうちに英語検定もあるため、このテストの結果から自分がどのくらいの英語能力があるのかを確認し、英語検定に向けていろいろな問題に挑戦してほしい。と希望を語

つてくれた。
九月十一日に結果が全員届いた。その結果を参考に

和二十七年、体操の鍋谷、
野田選手へのヘルシンキオリ
ピック出場記念の植樹が行
れている。これも前庭にあり
記念碑もある。「諸君若人
象徴として、私は樹木を愛
る」當時の小林校長の言葉
だ。

トリビアの星

※今回掲載されている内容は全て、本人、もしくは関係資料で検証済みです。

○菊池二三先生は、能高第
 45期・生徒会長だった
 【検証】校友時報「昭和四十
 八年九月二十八日登
 行」138号より

立候補演説をする
 菊池先生

菊池先生は昔・・能代
 工業スヶ部にスカウトさ

現在の姿

れた

●錢谷眞理子先生は、ホリマツクの前の坂道を・・・立っこぎしないで登る

●須藤建吉先生は、能高第期・・・・副会長だった

【検証】「校友時報（昭和六十二年十二月十八日發行）203号」より

●十里強歩は最初・・・十里あり、午前0時にスタートし、最終フィナー到着は・・・午後二時

●高田邦敏先生と桜井博文先生は・・・熱狂的な阪神ファン（優勝おめでとう）

●桜井博文先生は、能高第期・・・生徒会長だった

【検証】「校友時報（平成三十二年十二月一日發行）

218号より
○佐藤英徳先生の車は・・
観音開き



自慢の愛車 マツダRX-8

○菊池二三先生は、女優
名取裕子・・・友達

＊ ＊ ＊

今回は、先生方を対象にインケールを行いました。今、インケールを行なったものは、次号以降で紹介していきます。協力してくださった先生方ありがとうございました。

「○いつ頃から使われるのか
昭和49年7月からずっと使
われていた。」
「生徒は入れるのか（答え
は分かっていたが）」
「入れません。」と言った。
「○いつ開けるのか」
現在はその他には何も使われ
ていないが、昔無縁部で使っ
た時の残骸が残っているだろ
う。」
インタビュール終了後、四階
に連れて行ってもらえること
になった。入り口の鍵を開け
てはしこを登った。そこは蒸



4 階の貯水機

アベック出場を讀んで、その年の十月に建立されたメモリアル。碑の高さは22メートル、黒御影石でできており、工費三百万円だった。この夏の夏は、本校の卒業生である鈴木裕美・選手が自転車競技個人ロードレースでバルセロナオリンピックに出場したこともあり、平成四年の夏は代が燃えこ燃えたようだ。〃〃〃本谷美・選手の出場記念碑前庭にこの年建てられた。また、二都市から一度に人のオリンピック選手を出さという秋田県として空前の事を記念するため」として

編纂後記
 今回、新生新聞部として旅立ちの第一号を発行したうまく原稿がまとまらなかり、アンケートやインタビューに時間がかかったりと困難もあったけれども、初めとは思えないなかなかの調子だと思ふ。これから、皆に進んで読んでもらえるような新聞を作りたい。

和二十七年、体操の鍋谷、
野田選手へのヘルシンキオリ
ピック出場記念の植樹が行
れている。これも前庭にあり
記念碑もある。「諸君若人
象徴として、私は樹木を愛
る」當時の小林校長の言葉
だ。

218号より
○佐藤英徳先生の車は・・
観音開き



自慢の愛車 マツダRX-8

○菊池二三先生は、女優
名取裕子・・・友達

＊ ＊ ＊

今回は、先生方を対象にインケールを行いました。今、インケールを行なったものは、次号以降で紹介していきます。協力してくださった先生方ありがとうございました。